

EXTEND2010 の今後の展開について（案）

1. 背景

環境省では、化学物質の内分泌かく乱作用に関する対応については、その影響について未解明の部分が多くふくまれていることから、これまで「環境ホルモン戦略計画 SPEED '98」、「ExTEND 2005」、平成 22 年 7 月に策定・公表した「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応－EXTEND 2010－」といった枠組みを策定し、重点的に検討を行ってきた。

現在は、EXTEND2010 の枠組みの中で、①野生生物の生物学的知見研究及び基盤的研究の推進、②試験法の開発及び評価の枠組みの確立、③環境中濃度の実態把握及びばく露の評価、④作用・影響評価の実施、⑤リスク評価及びリスク管理、⑥情報提供等の推進、⑦国際協力の推進、の 7 つ柱に基づき、これまでの知見も踏まえた総合的な観点から検討を行っており、調査研究、試験法開発、作用・影響評価など一定の成果を上げている。

EXTEND2010 は、策定当初より「平成 22 年度から 5 年間程度の期間を念頭に置いて、化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省としての対応の方向性をまとめたものであり、今後の調査研究の進展により、適宜必要な見直しを行う」と位置付けられており、この 5 年間における検討の進捗、成果等について整理した上で、その後の展開方策について検討を行う必要がある。

2. 検討の方向性について（案）

(1) 検討すべき項目について

- ・これまでの調査研究、作用・影響評価等の進捗状況や成果の整理
- ・化学物質の内分泌かく乱作用に係る国際的な検討の動向に関する情報収集
- ・今後の進め方に関する方針の検討

(2) 検討のスケジュール等について

上記の内容について、平成 27 年度前半に本検討会で検討を行い、取りまとめることとする。なお、検討・取りまとめに当たっては、必要に応じて本検討会の下に設置されている各部会（作用・影響評価検討部会、基盤的研究企画評価検討部会、及び野生生物の生物学的知見研究検討部会）等の意見を踏まえつつ行うこととする。